

Information magazine "NINUFABUSHI"



ニヌファブシ

vol. 10
2007.12

首里城下町クリニック^{第一}_{第二}・那覇西クリニック・那覇西クリニックまかび
共同発行情報誌

はじめに

今年もはや師走を迎え、日増しに寒さの募るころとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

本誌は、首里城下町クリニック(旧 田名内科クリニック)・那覇西クリニック・那覇西クリニックまかびが共同で作成している広報誌「ニヌファブシ」の第10号です。おかげさまで10号目を発行することが出来ました。ご協力くださった方々にも感謝し、これからも充実した内容をお届けできるように頑張りますので、よろしくお願ひします。

タイトルの「ニヌファブシ」とは、沖縄の方言で北極星の意味です。

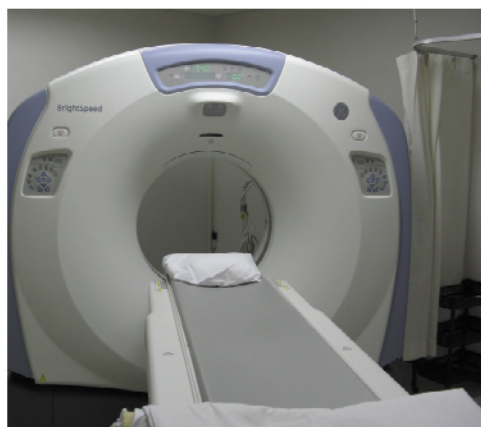
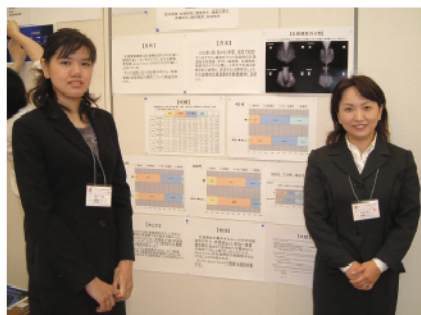
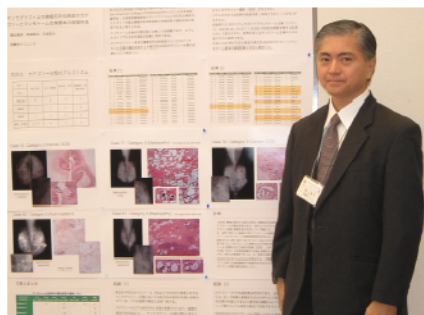
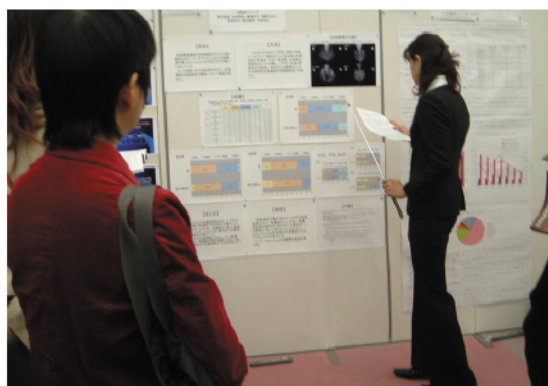
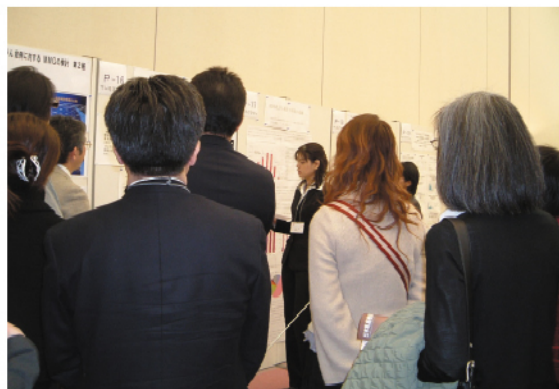
「ていんさぐの花」にも歌われるように、灯りもない昔、人々は北極星を道しるべにしていました。そんな北極星のように、地域に根ざし、皆さまから慕われるようなクリニックでありたいという思いが込められています。

那覇西クリニックトピックス

学会報告

H19年11/21、22に神奈川県「パシフィコ横浜」で開催された、第17回日本乳癌検診学会で診療放射線技師の源河さんが「マンモグラフィにおけるdense breast: 乳癌発症の危険因子として」を演題として発表しました。

当院における1年間の乳癌症例の中で、乳腺濃度が高濃度である割合が「良性または異常なし」よりも高いという結果のもと、高濃度乳腺は慎重な追診が必要であるという内容でした。



新CTの紹介

平成19年10月より、本院に新しいCT装置を設置し、稼動しています。

名称は、GE製の「Bright Speed Edge」といい、1回の撮影で同時に複数の輪切り像が得られる最新型マルチスライスCTスキャナーです。

なお、今まで本院にあったCT装置は、分院のまかびに移動した為、まかびでのCT検査も行えるようになりました。

消防訓練

平成19年11月29日那覇西クリニック院内消防訓練が行われました。

今回の訓練では、透析患者の模擬離脱搬送の手順等行い、それぞれの役割分担でスムーズに訓練が行われました。



消火器の説明



消火ホース補助



消防署への連絡



透析の離脱の説明



患者さんの誘導



Hello ともよろしく!
新しいメンバーが
仲間入りしました♡



透析 高良優子

10月22日から透析室に勤務しています。初めての透析で不安ですが、優しい先輩方の指導の元、頑張りますのでよろしくお願いします。



透析 齋藤ひとみ

今年の10月から働かせて頂いています。まだ沖縄に来て2年目ですが、那覇西クリニックのスタッフの皆さんに温かく迎えて頂き職場・私生活が、とても充実しています。早く慣れて活躍できたらと思います。



看護助手 高浜由美子

医療関係の仕事に着くのは、初めての経験です。私の仕事は、主に手術場での影の仕事でもあります。でも、回りのナースさん達に、支えられて、日々頑張ってます。もし見かけたら声をかけて下さいね。

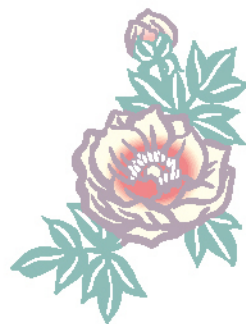


検査 新垣美香

この度、那覇西クリニックで勤めさせていただく事になりました。慣れない事でご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く皆さんのお役に立てるように、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いします。

「日本人はアジア人」

那覇西クリニック
副院長 鎌田 義彦



先日、アジア乳癌学会出席のため香港に行く機会を得ましたが、気候・植物が沖縄と大変よく似ていて、外国にいる感じがあまりしませんでした。香港の面積の1/10にあたる香港島と九龍半島に総人口の半分の約350万人が住んでいて、人口密度が世界トップ。特に中心部の市街である香港島北部は山がちで狭い土地に人口が集中していることから超高層建築が林立しています。にもかかわらず、アメリカのマンハッタン（行ったことはありませんが）や東京都心の感じというよりは、沖縄の平和通りが巨大化し発展するとうなるのかなといった、とても賑やかで活気があって明るい感じで親しみを覚えました。

学会はアジア各国からの発表でしたが、6月に出席した米国臨床腫瘍学会では欧米人の最先端の発表が中心であったのに対して、この学会の発表内容はやや見劣りがしたのは否めませんでした。ただ、学会会長を務めたチョー先生が強調されたように、大変大切なことは研究発表がアジア人を対象にしているということでした。私たちが使っている多くの薬は欧米人に対してその効き目と副作用がためされています。しかし、欧米人と私たちアジア人は色々と違う点もあるはずで、特に遺伝子レベルのことが段々分かってくると、遺伝子多型とかいって薬に対する反応、薬の代謝分解などに関わる酵素が色々と違うことが分かってきました。物によっては欧米人とアジア人ではかなり違う可能性があります。そのことを考えると、欧米の研究成果をそのままアジアや日本人に当てはめる訳にはいかないことが理解されて来ます。

チョー先生のクリニックを訪ねましたが、ビルの一つの階を占めるのみで入院施設もなく、那覇西クリニックよりも小さいし、手術の数も那覇西クリニックよりも少ないですが、臨床試験はアジア有数です。大変大切な情報発信をしているのです。那覇西クリニックも、国立九州癌センターや北九州医療センターなど、九州の主だった乳癌治療機関と一緒に、これまで「臨床試験」(コラム参照)に参加してきましたが、今回の学会を通して私たちが行なっている治療をきちんとまとめて、これからは私たち日本人にとって最も効果的で安全な治療法の確立のための情報発信をしていかなければならないと、自覚を新たにさせられました。

コラム

臨床試験には大きく分けて「治験」と、「医師主導臨床試験」とがあります。「治験」とは、未承認薬を用いて主に製薬企業が主体となって行う臨床試験です。一方、医師主導臨床試験は、医師が主体となって非営利で行うもので、これまで厚生労働省で承認された薬、治療法や診断法を用いて、その中から最良の治療法や診断法を確立すること、薬のよりよい組み合わせを確立することなどを目的としています。全て保険診療の範囲内で行われます。